



田尻ゆう子さん (33歳)

昭和60年鹿屋市生まれ。宮崎県の大学を卒業後、神奈川県のコソサールディング会社に就職。平成28年8月1日に着任。

不安な面もありますが、地域おこし協力隊として経験したことや築いてきたネットワークを生かして、また、皆さんに少しでも恩返しができるように、街の活性化に向けて頑張っていきたいです。

鹿屋の魅力を発信
「マチのファンづくり仕掛け人」として、リナシティかかのや周辺の商店街の方々と連携して活動してきました。主な役割は空き店舗の調査やイベントの企画・運営。出店希望者への情報提供にも活用できるよう「空き店舗マップ」も作成しました。

今後市内で起業
あつという間の3年間でしたが、これまで支えていただいた皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。4月からは個人事業主として市内で起業し、引き続き店舗の情報発信やマップの作成を中心としたデザイン業などを行います。



「まちなか商店街マップ」ではエリアごとに色分けされた57の店舗が紹介されている。



3人の地域おこし協力隊員が卒業 それぞれの道へ

平成28年度から「地域おこし協力隊員」として地域のために尽力された木下菜菜さん、田尻ゆう子さん、福元康洋さんの3人が3月31日で任期を終えることから、これまでの活動や思い出を振り返ってもらいました。

市地域活力推進課 TEL 0994-31-1147



自転車を通じて

「スポーツコミッションマネージャー」として、自転車普及イベントの開催や、自転車にちなんだ「車輪ドーナツ」という商品の開発などを行いました。また、プロサイクリングチーム「シエルブルー鹿屋」のサポートも主な活動でした。チームの個人サポートに宛てて、お礼の手紙を添えてグッズを配付したり、サポーターを増やすためにイベント等でチラシを配布したりして、3年間で350人以上の方が新たにサポーターになってくれました。

隊員同士で協力

一番の思い出は、平成29年12月にクリスマス衣装をまとった鹿屋の街をサイクリングした「サンタdeサイクリング」です。



「サンタ de サイクリング」では、サンタの格好をした参加者が笑顔でサイクリングを楽しむ姿が見られた。

輝北の特産品を開発

「輝北町特産品等開発推進員」として着任し、約40品以上の試作を重ね、輝北産の「UFO卵」や「うわばの生乳」などを使ったパウムクレーン「輝北パウム」を開発しました。一番こだわったのは食感です。色々な種類のパウムクレーンを食べ比べて、理想の食感を追求してきた結果、10層になるパウムクレーンを生地を、オーブンで一層一層丁寧に焼き上げる製法にたどり着きました。



プレーン、ココア、緑茶、ほうじ茶の4つの味が楽しめる「輝北パウム」は「輝北キラキラ館」で販売している。

地域の皆さんに感謝

「輝北パウム」の開発にあたっては、地域の皆さんからたくさんのご協力をいただきました。農家さんから、卵や生乳、お茶・野菜など、試作に使う新鮮な材料

を無料で提供していただき、地域のイベントで試食を実施した際には、商品の改良につながる意見を多数いただくことができました。また、慣れない土地で不安なこともありましたが、「頑張ってるね」など温かい言葉をいただくことも多く、地域の皆さんには本当に感謝しています。在任中に特産品を開発できたことはうれしかったです。もう少し早く方向性が決まっていれば、さらに時間をかけてより良いものができたのではないかと、という悔しさもあります。



福元康洋さん (34歳)

昭和59年鹿屋市生まれ。福岡県育ち。同県の飲食店に勤務した後、飲食店関係の会社を経営。平成28年9月1日に着任。

この悔しさを糧に、4月からは別の仕事をしながらではありますが、市内に定住し、できる限り、輝北・鹿屋の特産品開発に関わっていきたいです。



木下 菜菜さん (24歳)

平成7年錦江町(旧大根占町)生まれ。福岡県の短期大学を卒業後、同県の菓子店に就職。平成28年4月1日に着任。

地域おこし協力隊の意見交換会の中で企画したイベントで、5人の隊員で役割分担し協力して作り上げました。私は、コースの設定や時間配分の調整などを担当。今まではどちらかというと補助的な立場でイベント等に関わっていましたが、初めて指示をもらう側から指示を出す側になりました。1つのイベントを開催することの大変さを痛感しましたが、自分の成長へとつながった貴重な経験です。